

2023 「はたらく女性の集会」

連合北海道女性委員会は、はたらく女性が抱える諸問題について組織を越えて共有し合い、改善に向けた一歩につながることを目的として、毎年「はたらく女性の集会」を開催しています。

今年は9月2日(土)に、対面・Web 併用で開催し、6産別5地区101人が参加しました。



はじめに、河原崎育子連合北海道女性委員会副委員長が、最近の情勢として、①2023年度の最低賃金が40円引き上げの960円に改定し、10月1日から発行することで結審したが、1日8時間、月に20日はたらくとしても、年間でも約184万円にしかならず、とりわけ女性については、男女間賃金格差があることから鑑みてより厳しい状況であること、②連合北海道が道に提出した「要求と提言」に「ジェンダー平等とワーク・ライフ・バランスの実現」について、今回初めて独立した項目として設けられたこと、を挙げ、どちらにもまだまだ課題が多く、連合女性委員会としてしっかりと取り組んでいくことが重要であると挨拶をしました。また、連合北海道女性委員会はこれまでも様々な問題や制度について学習を重ねてきたが、自分の身体が健康でなければよりよくはたらくことができない、「自分の身体を大切に」というのが今回の集会の趣旨である、と話しました。

基調講演では、助産院ハイジアの佐藤みはるさんに「はたらく女性のヘルスケア」と題して講演いただきました。「女性にはライフステージごとの健康課題があり、長く付き合うことになる月経は、自分の月経を理解し、異常を放っておかず、セルフケアをすることが大切。また、更年期症状は仕事への影響が大きい。男性の更年期も増えており、更年期の経済損失は男女合わせて6300億円にも上る。更年期の症状は200~300種類もあると言われており、自分に合った医師やセルフケアの方法を見つけておくことが重要である。男性の場合は鬱病と同じように見られてしまうことが多いため、先に更年期の薬をためてみると良い。更年期について自分が知識を得ることはもちろんだが、職場や家族にも知識が必要であること、そして職場の環境整備や風土づくりも重要である。」と、私たちが自分の身体を見つめ直すきっかけとなるような講演をいただきました。



その後、北教組の柴田優美さんから、学校の現在の状況について産別報告がありました。毎日暑く、朝から教室の中が29℃もあるのに有効な手だてがなされていない現状や、退職者の代替者がおらず、残っている教職員に無理がかかっている状態は子どもにも不安を与え、良くない影響を与えていること、給食についても「お金ありき」で、カロリーが不足する、という現象が起こっていることなどがはなされました。子どもたちが出会う最初の労働者は教職員であり、だからこそ元気で楽しくはたらくことのできる環境づくりが必要なのではないかという投げかけもありました。



「ろうきん講座」では、北海道労働金庫営業推進部 安藤桂さんから「連合北海道と取り組む可処分所得向上運動について」として、話がありました。ろうきんの行っている「可処分所得向上運動の取り組み」や「職域活動費の活用」等について説明がありました。

最後に、和田連合北海道副事務局長より集会総括が行われ、閉会しました。



連合北海道 2022 女性委員会第 34 回定期総会

1. とき 2022年10月7日(土) 9:30~12:00
2. 場所 北海道自治労会館(WEB 併用)
3. 内容 ①一般経過報告
②第1号議案「2023年度活動に関する経過及び総括」(案)
③第2号議案「2024年度活動方針」(案)

最後に、和田連合北海道副事務局長より集会総括が行われ、閉会しました。

「ろうきん講座」では、北海道労働金庫営業推進部 安藤桂さんから「連合北海道と取り組む可処分所得向上運動について」として、話がありました。ろうきんの行っている「可処分所得向上運動の取り組み」や「職域活動費の活用」等について説明がありました。

最後に、和田連合北海道副事務局長より集会総括が行われ、閉会しました。